

## 南予地域柑橘農業復興対策チーム第14回会議の内容

〔 令和3年6月15日（火）13:30～ 〕  
〔 南予地方局7階大会議室 〕

### 1 復旧状況について

(1) 施設面の復旧状況 (P2～P4) について関係機関から報告

農道、自動化スプリンクラー、モノレールは、各管内で復旧が進み、9割以上復旧済み

(2) 生産面の復旧状況 (P6) について各農協から報告

#### ①JA えひめ南

被災前の平成29年産の温州みかんと比べると、令和2年産は出荷量で108%、販売金額で102%、単価で94%となり、被災前のお荷量を確保。令和3年産のお荷量は昨年並みを予想。

#### ②JA ひがしうわ

JA えひめ南と同様、平成29年比で出荷量が108%、販売金額が94%、単価が87%であった。令和3年産のお荷量は昨年並みを見込んでいる。

#### ③JA にしうわ（事務局から報告）

令和2年産は平成29年比で出荷量が120%、販売金額が122%、単価が101%となっており、順調に販売できた。

### 2 中・長期的対策について

(1) 園地復旧について

#### ①原形、改良復旧の取組状況 (P8～P11)

○宇和島市、西予市、県（農村整備課）

原形・改良復旧は約9割の工事を執行済み。宇和島市執行分の未発注工事は遅くとも上半期に全件発注するとともに執行済み工事の早期完成に向け、関係機関が連携して対応中。

#### ②再編復旧の推進 (P13～P17)

○県（農村整備課）

玉津地区は7月から工事に着手予定。令和6年春から植栽開始を見込んでいる。

立間地区は現在、実施計画を策定中。令和4年度に事業着手予定。令和7年春から植栽開始を見込む。

(2) 営農支援策について

#### ①代替園地の掘り起こしと希望農家への斡旋

(ア) JA えひめ南、宇和島市

昨年度、マッチングしたが、品種、面積、樹齡等の条件が合わず、マッチングに至っていない旨を報告。JAとしては関係機関と連携のうえ、随時、調整したい。

なお、農地の流動化が被災前と比べて進んでいる。(宇和島市)

(イ) JA ひがしうわ

宇和島市吉田町から西予市明浜町への出作が30戸あり、園地の改植が進んでいる。

②早期成園化に向けた大苗育苗や新技術の導入について (P19~P20)

○県 (地域農業育成室)、JA えひめ南

玉津地区において、温州みかん 1,500 本の大苗育苗を開始。

JA えひめ南では、2 年生苗木を令和 4 年春に 18,000 本程度を提供予定。

根域制限栽培の実証園は、令和 2 年 3 月に南柑 20 号 (約 190 本) を定植後、順調に生育中。

③労働力確保対策

(ア) JA えひめ南

新型コロナウイルスの状況を見ながら、県内外のアルバイトを検討。県、市の補助事業を活用し、送迎や簡易トイレを設置予定。

(イ) JA ひがしうわ

昨年同様、お手伝いプロジェクトの活用を検討予定。

(ウ) JA にしうわ

昨年同様、県内外アルバイトを受け入れる予定。

④紅プリンセスの産地化について (P18~P19)

○県 (地域農業育成室、農産園芸課)、JA えひめ南

令和 2 年 6 月に促進協議会を設立し、産地化に向けた協議会を 3 回開催。魅力度向上セミナーを 3 月に開催し、市場関係者との意見交換を実施。市場関係者からは販売に期待との声。

JA えひめ南では、令和 4 年春定植分苗木 10,400 本を確保。適地適作のもと、導入を推進。

農産園芸課からは、果実品質等の基準を説明。

3 その他

・令和 3 年度補助事業等について (P21~P25)

(1) 高収益作物次期作支援交付金 (国補助事業)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市場価格低落等の影響を受けた野菜・花き・果樹・茶などの高収益作物について、次期作に前向きに取り組む生産者を支援する事業。具体的には種苗等の資材購入や機械レンタル等、新たな品種導入などの取組みを支援するもの。今年度、支援内容等を見直しているため、内容を確認のうえ、条件を満たす場合は活用いただきたい。

(2) 豪雨災害園土壌の化学性と土づくりについて (県果樹研究センター)

平成 30 年 7 月豪雨被災園について、令和元年に土壌分析を実施した結果、肥料分が少なく、保肥力・保水力に乏しい土壌になっていることから、土壌改善に努めていただきたい。

(3) 未来型果樹産地強化支援事業 (県単独事業)

果樹研究センターから説明のあった土づくりについては、当事業のメニューにあるので積極的に活用いただきたい。